

R6年度 富屋特別支援学校鹿沼分校 学校評価シート

【教育目標】 一人一人の障害の状態等に応じたきめ細やかな教育を行い自信と意欲を育てることにより持てる力を伸ばし、社会において自立的に生きていく基礎を培う

【評価基準】 A:達成できた(A+B 95%以上) B:概ね達成できた(A+B 90%以上) C:あまり達成できなかった(A+B 85%以上) D:達成できなかった(A+B 85%未満)

	今年度の重点目標	推進担当	達成目標	具体的な取り組み	成果と課題	保護者アンケート		教職員自己評価		評価	考察	今後の取組(改善策)
						A+B(%)	C+D(%)	A+B(%)	C+D(%)			
家庭や社会で自立的に生きていく力を育てる指導の充実	①家庭生活、社会生活、職業生活につながる学習内容、指導方法の工夫をする	学習指導部	・興味関心や好きなことを生かした授業づくりを推進する。	・「生活に生かせる算数・数学科の教材教具とその活用法」をテーマにした校内教材教具展を開催する。 ・生活につながる「職業・家庭」の指導内容について、中学部内で検討を行い、系統立てて年間指導計画に盛り込む。 ・事例検討会(自立活動指導充実事業)や自立活動シートの作成などを通して、興味関心や好きなことを指導に生かすことの大切さについて周知する。 ・将来の生活に必要な力についての研修を行う。	・各学級から2点以上出品して校内教材教具展を開催し、情報共有と研修を図ることができた。 ・学年ごとの系統性を考え、次年度に向けた「職業・家庭」の年間指導計画(案)を作成した。今後、より生活につながる内容となるよう、学部内での検討が必要である。 ・「興味関心」を活用した指導の有効性についての周知に努めることができた。 ・進路に関する職員研修会では、趣味をもつことの大切さなど、進路先から参考になる話を聞くことができた。 以上、各係の具体的な取組を通して、目標内容の推進に努め、今後も継続していいことが望まれる。	96% (70 26)	4% (4 0)	100% (66 34)	0%	A	・どちらも95%以上の高評価を得られた。興味関心を生活につなげていく指導の大切さについて、理解が深まったと考えられる。また、実践を保護者に伝えることを推進してきた結果と考えられるが、保護者の方で、C評価が4%あることから、取組を保護者に分かりやすく伝えることに課題があったと考えられる。	・学部と積極的に連携しながら、生活に生かせる指導の工夫に取り組んでいく。また、研修係と協力して、教員一人一人の指導力向上を図っていく。 ・保護者に向けて、児童生徒一人一人についての取組を具体的に伝えるように努めていく。
		教務部	・指導上の課題について各学部や分掌部と情報交換を行い、指導力の向上を図るための校内研修を推進する。	・ICT等についての研修を行い、授業や教材教具作成に生かす。 ・学部や分掌部が主体となる研修を取りまとめ、職員会議後に、ミニ研修会を実施する。	・会議後にPC等の機器やアプリの活用法について研修を行うことができた。 ・職員向けのアンケートで研修の希望を取りまとめ、ミニ研修会を実施し、職員全体の指導力の向上を図れた。			100% (55 45)	0	A	・どちらも95%以上の高評価を得られた。指導上の課題について、指導力の向上を図るための校内研修ができたと考えられる。	・今後引き続き職員向けのアンケートを行い、ICT関係やニーズに合った研修を実施し、職員全体の指導力の向上を図っていく。
	②健康で安全に生活する意識と実践力を育成する	児童生徒指導部	・児童生徒が安全に生活する意識を高める交通安全教育を行う。	・実態に応じた交通安全教室を実施し、地域学習などの際実践する。 ・取組についてホームページで周知する。	・小学部は2回、中学部は1回交通安全教室を実施した。学習したことを地域学習で繰り返し実践したことで、交通安全に対する意識を高めることができた。また、ホームページを通して取り組みについて発信することができた。	100% (82 18)	0	100% (93 7)	0	A	・どちらも高評価が得られた。交通安全教室の後に繰り返し地域学習に行くことで、意識を高めることができたと考えられる。また、保護者にはホームページや児童生徒指導だよりを通して知らせたことが良い評価につながったと考えられる。	・今後も交通安全の指導を繰り返し行うとともに、学校周辺の危険箇所などを確認することで、安全に対する意識を高められるようにしていく。
		健康安全指導部	・児童生徒が自分の身を守る行動について学び、実践できる力を高める防災教育を行う。	・避難訓練や事前、事後学習を通して、自分の身を守る行動について学び、実践できるよう指導する。 ・避難訓練の様子をホームページに掲載し、家庭での防災教育につなげる。 ・うがい、手洗いなど清潔に関する習慣を身に付けられるよう指導する。	・事前、事後学習用のパワーポイントを使用し、年間5回の訓練を実施することで、安全に避難することができた。また、その様子をHPにて発信し、学校での取組を家庭に繋げることができた。 ・日常生活の中で、うがい、手洗いの指導を行い、習慣づけることができた。引き続き、指導する。	100% (86 14)	0	100% (93 7)	0	A	・どちらも高評価が得られた。事前学習、訓練実施、事後学習の学習サイクルに繰り返し取り組むことで、安全に避難することの意識づけができた。また、うがい、手洗いについても、児童生徒が、自主的に取り組む様子が見られた。学校での取り組みについては、引き続きHPで周知していく必要があると考える。	・今後も児童生徒が自ら身を守る行動をとることができるよう、繰り返し避難訓練に取り組む。また、清潔に関する習慣についても、継続して指導する。
	③家庭への情報提供や連携を工夫し学んだことを生活につなげる	教務部	・ホームページを活用して学習活動に関する情報発信を行う。	・分掌部で関連する行事や日頃の学習の様子などを定期的にホームページに掲載するよう、各部や係に発信する。 ・タブレットの持ち帰りができるよう整備する。 ・ホームページの活用法を検討、提案することで、学校での取組を家庭と共有する。	・各部の行事や取り組みを係中心にHPに掲載し、行事や学習の様子を発信できた。 ・校内の持ち帰りの手続きが整備できたため、今回は写真撮影の機能に限定して貸与した。今後は児童生徒の活用スキルの育成、保護者との情報共有などの試行をクリアした上で目的を明確化した持ち帰り活用を進めていく。 ・情報発信手段として活用できていたが、今後紙で発行している学部ブロック便りや連携若しくは代替えなどの活用拡大が考えられる。	100% (69 31)	0	100% (99 1)	0	A	・どちらも高評価が得られた。各部の行事や取り組みを係が中心にHPに掲載し、行事や学習の様子を発信したことが結果に表れたと考えられる。	・今後も児童生徒の情報活用能力の育成、保護者との情報共有など試行を重ねタブレットの持ち帰り活用を進めていく。
		小学部	・保護者に学習の様子を分かりやすく伝えることで、家庭と連携し学習の定着を図る。	・ホームページや保護者会、個人懇談などを通して、動画や写真で学習の様子や成果を保護者に伝える。 ・学校で学んだことを家庭でも実践できるよう、日頃活用している手帳表等を家庭と共有する。	・ホームページを通して、定期的に学習の様子を分かりやすく発信したり、個人懇談等での情報提供を工夫したりすることで、学習の成果を丁寧に伝えることができた。 ・引き続き家庭との連携を工夫することで、実践的な学習に結び付けていく。	100% (77 23)	0	100% (89 11)	0	A	・どちらも100%の高評価が得られた。保護者に学習の様子や成果について分かりやすく丁寧に伝えられたことが良い評価につながったと考えられる。今後も継続的に家庭との連携を図っていく必要があると考える。	・学校で学んだことを家庭においても実践できる方法をさらに工夫することで、学習の継続を促し、生活の中で生かすことができるようにしていく。
中学部		・学習の取り組みについて保護者に伝え、家庭での定着を図る。	・学習の様子をタブレット等で記録し、個人懇談や保護者会、またホームページで保護者に伝える。 ・清掃(テーブル拭き、床掃除)について、日常生活の指導や、生活単元学習、職業・家庭を中心に、基礎的な知識と技能の習得を図る。 ・長期休業中の「生活表」を活用し、手伝いを決めて毎日行うことで、家庭生活につなげる。	・個人懇談や保護者会、またホームページで様々な学習の取り組みを写真や動画で伝え、保護者と情報の共有を行うことができた。 ・清掃については、手伝いとして取り入れる家庭もあり、学校での学習を家庭につなげることができた。今後も引き続き、家庭との連携を図っていく。	100% (70 30)	0%	A	・どちらも100%の高評価が得られた。学習の取り組みを様々な方法で伝えることで、保護者と情報の共有を図ることができたため、良い評価につながったと考えられる。	・今後も、学校で行った学習を家庭でも継続して取り組んでもらい、定着を図るよう、色々な取り組みを発信していく。			
人との関わり、地域との関わりを広げる指導の充実	①人との関わる機会を大切にし、コミュニケーション能力の向上を図る	学習指導部	・人との関わりに関する指導の充実を図る。	・職員自身が人権意識を高めて指導に当たれるよう、係が研修会を開き、丁寧に説明を行った。職員の言動を通して児童生徒が適切な関わり方を学べるよう、自己点検していく必要がある。 ・児童生徒会総会での中学部の委員会活動の発表や、小学部の縦割りグループでのクラブ活動など、学部、学年を超えた交流の機会が設定できた。 ・学校間交流の事前にも、個別の配慮点について共通理解を図ったり、自然な関わりがもてるよう交流活動の内容を工夫したりなどの取組を行った。引き続き、交流の仕方について検討していく。 ・朗読ボランティアによる絵本の読み聞かせや西中とのおはなし会が予定通り実施でき、良い学習の機会となった。さらに、様々な人材や場を活用して、人と関わる機会を広げていきたい。	98% (74 24)	2% (2 0)	100% (62 38)	0%	A	・どちらも95%以上の高評価を得られた。各係の具体的な取組が、結果に表れたものと考えられる。また、保護者の方でC評価が2%あることから、児童生徒の学習の様子や成果の伝達に不十分さがあつたのではないかと考えられる。	・今後も校内及び地域との関わりの中で、人と関わる機会の設定とその充実に努め、各学部の指導力向上に向けて、連携を図っていく。 ・保護者には、連絡帳や各種だよりを通して、その都度、学習の様子を分かりやすく伝えていく。	
	②地域と連携を図り、地域の人材学校、団体、施設イベント等を生かした学習活動を工夫する	相談支援部	・地域と連携して広く情報発信を行い、学校を知ってもらうことで、ボランティア登録者数の増加を図り、学習活動の充実を図る。	・地域イベントへの積極的参加、ホームページや学校公開、たりなどをおとして、地域に広く情報を発信し、ボランティアの具体的な活動や取組を周知し、ボランティア登録者数や活動内容の拡充を図る。	・ホームページや、ちいき新聞、学校公開を通して、分校の教育活動や児童生徒の様子、学校支援ボランティア活動などについて、地域へ向けて情報発信ができた。 ・「ふれあいフェスタinかぬま」「かぬまシウマイ博覧会」などの地域のイベントに参加し、鹿沼分校を知ってもらう機会とすることができた。 ・新規の取組として、小学部授業補助ボランティアを依頼し、体育や地域学習の授業で活用することができた。 ・地域住民や学生を対象に、ボランティア養成講座を周知し、新規登録者を今後も継続して募集していく。	100% (82 18)	0	97% (59 38)	3% (3 0)	A	・どちらも高評価を得られた。ボランティアの具体的な活動や取組について、様々な方法で情報発信できたことが良い評価につながったと考えられる。教職員の方でC評価が3%あつたが、ボランティアの高齢化により、依頼内容によっては、対応できない場合があることが課題と考えられる。	・今後も引き続き、ボランティアの活動内容や取組を、地域へ向けて情報発信していくとともに、地域住民や学生を対象に、ボランティア養成講座を周知し、新規登録者を継続して募集していく。
		渉外部	・地域の人材を生かした活動を継続する。	・和太鼓交流を継続する。 ・授業につなげられるよう各担当者に依頼する。 ・活動の様子をホームページで発信する。	・和太鼓交流を実施し、活動の様子をホームページで発信した。各担当者への依頼は、不十分であった。和太鼓交流は、地域の方々の協力を得ながら、今後も実施していきたい。	100% (68 32)	0%	A	・どちらも高評価を得られた。具体的な取り組みが和太鼓交流の実施、ホームページでの発信と分りやすいためと思われる。	・反省を生かしながら、今後も地域とつながりをもてる活動を継続する。		
いじめ防止対策	いじめの実態の把握及びいじめに対する措置を適切に行う	児童生徒指導部	・いじめの未然防止や早期発見について、組織的な対応を行う。	・学校と家庭、関係機関の密接な連携の下「学校生活アンケート」を実施し、児童生徒の思いを把握する。 ・連絡帳の確認や、保護者との懇談等をおとして、早期発見に努める。 ・いじめを把握した際には、「いじめ対策委員会」を設置し、組織的に対応する。	・学校生活アンケートを実施し、いじめの早期発見に努めることができた。また、いじめ発覚時には臨時のいじめ対策委員会を行い、組織的に対応することができた。今後も保護者との連携を密にし、いじめの未然防止、早期発見に努めていく。	98% (75 23)	2% (2 0)	100% (72 28)	0%	A	・どちらも高評価を得られた。いじめの早期発見、対応に適切に取り組めた結果と考えられる。しかし、保護者の方でC評価が2%あることから、保護者への情報発信に不十分な部分があつたと考えられる。	・今後もいじめの未然防止、早期発見に努めて児童生徒が安心して過ごせる学校づくりに努めていく。 ・保護者には連絡帳を通して児童生徒の学校の様子を日頃から丁寧に伝えていくよう努める。